

2015 年 12 月 特別賞

PR




小丸山公園の一茶像と俳諧寺



野尻湖畔に立つと北に見える小さな島、琵琶島。宇賀神社がまつられ、遊覧船に乗って渡ります（冬季休業）。

黒姫

信越国境に栄えた野鍛冶の里

真田一族をめぐる旅 vol.5



戦国時代を駆け抜け、峻烈な印象を残した真田一族。東北信地方にはそこかしこに真田氏ゆかりの地があります。稀代の英雄を育てた舞台を求めて、しなの鉄道に乗り。第五回は、長野駅から北しなの線で黒姫駅（信濃町）に向かい、信越国境の史跡を訪ねました。

野尻湖も戦場だった、戦国時代。北しなの線は長野県から新潟県の妙高高原駅まで、旧北国街道に並行する区間です。戦国時代に北国街道は整備されていませんでしたが、真田信繁（幸村）が上杉家に人質に出されたときは、この道筋をたどったのでした。信濃町には真田家ゆかりの史跡は見当たりませんが、一族が活躍した戦国時代に つながる足跡は残されています。

この島は野尻城という。上杉軍の前線基地でした。川中島の合戦の時、一時は武田軍の手に取り返した城です。武田の武将としてその後の地位を築いた真田家ですが、武田氏滅亡後は有力大名に開かれて、絶妙なバランスと知略で領土を守ってきました。幸隆、昌幸の時代に敵対した上杉のもとに人質として向かう信繁（幸村）の気持ちも、上杉家では丁重に扱われたともいわれ、その後両家ともに豊臣配下にあつて存在感を増していくこととなります。

刀から鎌作りを習得した里人たちが、膨大な武器需要があった戦国時代、激戦地となった北信濃を往來した刀匠を手伝い、鍛冶の技を習得した里人たちがいます。戦がなくなると鎌や鍬を作り、やがて薄く切れる味が優れた片刃の鎌を開発。古閑鎌、信州鎌と呼ばれ、明治になるまで鎌の一大ブランドに成長します。それが一九八二年に国の伝統的工芸品に指定された「信州打刃物」。鎌職人は十数軒に減少しましたが、大きな鎌の看板を掲げた国道18号沿いの黒姫物産センターでは鎌の展示を見て、購入できます。



城跡が散見される宇賀神社参道



黒姫物産センターと信州鎌の展示

一茶は柏原で、「百福の始まるふいご始哉」と詠んでいます。鎌作りの隆盛を予感させる一句です。真田十勇士には鎖鎌の名手として由利鎌之助が登場しますが、北信濃に栄えた鎌がキャラクターづくりに反映されているのかもしれない。

しなの鉄道沿線観光協議会
事務局 しなの鉄道(株) 営業課
上田市菅田 1-3-39 ☎ 0268(21)4702

2015年12月26日付 4段

しなの鉄道沿線観光協議会

[扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]

2015 年 12月 特別賞



PR

真田一族をめぐる旅

真田信之が築いた城下町・松代へ

戦国時代を駆け抜け、峻烈な印象を残した真田一族。
東北信地方にはそこかしこに真田氏ゆかりの地があります。稀代の英雄を育てた舞台を求めて、しなの鉄道に乗り。第四回は、千曲川を渡って篠ノ井駅から城下町・松代（長野市）に向かい、初代藩主・真田信之の足跡を訪ねます。

戦国の激戦地で静かに眠る信之の波乱の人生を思う

屋代、篠ノ井駅間の千曲川流域には、森將軍塚古墳や川中島古戦場など信濃の歴史を彩るさまざまな時代の史跡が残されています。城下町・松代もその一つ。関ヶ原で徳川方についた信之（信幸）は、1622年に上田から松代に移ります。居城とした松代城は、かつて海津城と呼ばれ、上杉謙信と対峙した武田信玄が山本勘助に築かせた別荘地。信之はこの城を中心に城下町を整備し、ふるさと小県地方

から、白鳥神社や開善寺など真田家ゆかりの寺社を移しました。

上田市真田にある真田家菩提寺の長谷寺も、一字変えて長国寺として松代に移し、長谷寺を末寺としました。観光客で賑わう真田宝物館周辺から東へ十分ほど歩くと、ひっそりした路地に突き当たり、長国寺があります。伽藍の裏には左甚五郎の彫刻を施した豪華な信之の霊屋や歴代藩主の墓所があり、拝観を依頼すると案内してもらえます。



復元された松代城



長国寺の真田信之の霊屋（国の重要文化財）



真田幸村・大助供養碑

人生の前半は「信幸」として戦いの日々を過ごし、後半で松代藩の土台を築いた信之、享年93。その墓は、更埴橋近くの大鉢寺にもあります。「大鉢」は信之の法号で、隠居所に建てられました。長国寺同様、島居につけた墓のほかに質素な霊屋があり、周囲の田園風景に溶け込んでいます。背後の千曲川の堤防を越えた河川敷には、川中島の戦いで討ち死にした山本勘助の墓が残され、松代が戦国時代の激戦地であったことをあらためて感じさせます。

しなの鉄道沿線観光協議会
事務局 しなの鉄道(株) 営業課
上田市菅田 1-3-39 ☎ 0268(21)4702

2015年11月28日付 4段

しなの鉄道沿線観光協議会

[扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]

2015 年 12月 特別賞



申窓から見える
上田城

上田

真田一族が縦横無尽に疾駆した

戦国時代を駆け抜け、峻烈な印象を残した真田一族。東北信地方にはそこかしこに真田氏ゆかりの地があります。稀代の英雄を育てた舞台を求めて、しなの鉄道に乗り。第三回は、いよいよ上田。真田幸隆、昌幸、信幸（信之）、信繁（幸村）が大活躍した故郷です。

砥石城から真田の郷へ。兵どもが夢の跡。

しなの鉄道大屋、信濃国分寺駅間に流れる神川。菅平高原から「真田の郷（旧真田町）」を流れ下り、千曲川に合流します。合流地点付近は徳川軍を打ち破った第一次上田合戦の主戦場といえます。から、ちよと鉄橋がかかる辺りでしょうか。鉄橋から北に目を向ければ、砥石城。米山城が並んで見え、いよいよ上田と期待が高まります。

上田は真田一族の故郷。上田をはじめめかりの地は数えきれません。最初に訪れたのは砥石城です。かつて村上義清が重要拠点として、武田信玄と激しく争って、武田軍は「砥石崩れ」と呼ばれる大敗を喫しました。その城を幸隆が知略で落とし、上田における真田の地位を確立。第一次上田合戦では信幸が、第二次上田合戦では信

繁（幸村）が布陣したと伝わります。登り口には櫓門が設けられ訪れる人々を迎えています。三〇分ほどで登れる里山で、山頂からは上田盆地が一望できます。

さらに北に向かうと真田氏本城跡、山家神社、長谷寺などが散在します。長谷寺には幸隆夫妻と昌幸の墓所があり、墓前には六文銭を模した硬貨がたくさん供えられ、思わず顔がほころびます。国道144号沿いの「ゆきむら夢工房」前からは、これら真田の郷の関連遺跡をめぐる定期周遊バス（週末・祝日）も運行しています。

真田氏歴史館と真田庵





真田幸隆夫妻・昌幸の墓所

真田氏歴史館と真田庵

しなの鉄道沿線観光協議会
事務局 しなの鉄道(株) 営業課
上田市常田 1-3-39 ☎ 0268(21)4702



2015年10月31日付 4段

しなの鉄道沿線観光協議会

[扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]

2015 年 12月 特別賞



白鳥神社社殿とご神木



写真提供／小諸市観光協会

真田一族をめぐる旅
Vol.2

戦国時代を駆け抜け、峻烈な印象を残した真田一族。東北信地方にはそこかしこに真田氏ゆかりの地があります。稀代の英雄を育てた舞台を求めて、しなの鉄道に乗車。第二回は、小諸駅、滋野駅、田中駅周辺に数多く散在する真田家ゆかりの地を訪ねます。

しなの鉄道小諸～上田間は、戦国時代の名残を感じさせる地名が数多く残され、その多くは真田家とも深い縁を持っています。真田十勇士を眺めると、海野六郎、望月六郎、根津（神津）甚八など、いかにも信州小県出身を思わせる名前が並び、講談にリアリティを加えています。

しなの鉄道小諸～上田間は、戦国時代の名残を感じさせる地名が数多く残され、その多くは真田家とも深い縁を持っています。真田十勇士を眺めると、海野六郎、望月六郎、根津（神津）甚八など、いかにも信州小県出身を思わせる名前が並び、講談にリアリティを加えています。

津金寺（立科町）

人力車が走る御古園

田中（東御市）で訪れたのはやはり海野宿。近世北国街道の宿場の街並みが六百五十メートルも続く歴史建造物群保存地区です。その田中側の入口に鎮座する白鳥神社は、海野氏を継承した真田家の氏神でした。信之は舞鶴山に祀じられ、いいますから、信仰の篤さがうかがわれます。境内にひととき高きそびえるご神木のケヤキは、樹齢七百年以上とのこと。真田一族が活躍した戦国時代にはすでに樹齢二百年以上を数えていたこととなります。境内には小ぶりな土俵もありました。そう、東御市は勝率九割六分を誇る史上最強大閥・雷電の故郷でもあります。

しなの鉄道沿線観光協議会
事務局 しなの鉄道(株) 営業課
上田市菅田 1-3-39 ☎ 0268(21)4702





2015年9月26日付 4段

しなの鉄道沿線観光協議会

[扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]

2015年8月29日付 4段

[扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]

2015年8月29日付 4段
しなの鉄道沿線観光協議会 [扱い アサヒエージェンシー／制作 ウッドハウスデザイン]